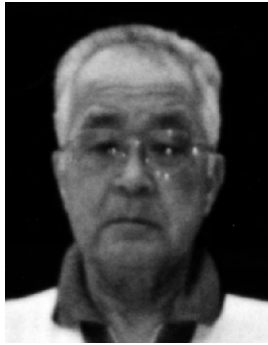


塚原 隆



表彰理由：

薨会は、昭和14年の第1回生入学時に故吉田享二先生御命名により発足したが、学制変更のため昭和25年の第9回生卒業をもって後続会員がなくなり、この限られた会員のほとんどが古希を過ぎている。

このような状況の中で、塚原氏は関係諸兄と語りながら30数年にわたり、薨会の要として、会員間の情報交流・連絡に留意し、会の存続に献身的に尽力されてこられた。現在も薨部会の評議員として稲門建築会に寄与されている。

これら一連の活動は、稲門建築会の発展向上にあたり功績は極めて大きいものがある。

経緯：

- ・1939 年 早稲田大学専門部工科卒業生の親睦会として「薨会」発足
- ・1947 年 塚原氏、早稲田大学専門部工科卒（第6回生）
- ・1950 年 学制変更により後続会員なくなるも、第1回～第9回卒の会員で「薨会」は継続
- ・1951 年 稲門建築会設立。「薨会」は会長不在であるが、各年度ごとの親睦を図るなか、会の横断的仕組

みを確立し、

塚原氏はこの取りまとめに奔走する

- ・1981 ～1982 年 塚原氏、稲門建築会評議員
- ・1988 ～1996 年 塚原氏、稲門建築会評議員
- ・1999 年～ 塚原氏、稲門建築会評議員

薨 会 命 名

吉田享二

大隈老候は常に理想は高くもてと強調された

理想なきその日暮しは青年には断じて許されぬ事である

何事も始めが大切であり、高き理想と共に出発しなければならぬ

ここに明朗に伴い、やがて快絶が叫ばれるのである

専門部工科の新設に当たっていま正にこの感を深くする

この際、建築科の学生諸君が新しく親睦の会を建てあげる事は当然の事

であり 将来多くの卒業生を会員に有するの大規模を予想して出立すべき

であり その創立者たる現在一年の諸君はやがては第一回の卒業生たるべき

きはいうまでもない事であり ここに極大の責任を有する次第である

先般、その会の命名を囑せられた

永き将来を想い、責任を感じ黙想また黙想、断然この会を「薨」と命名した

命名者としての自分はこれを自讃し、得意である

薨は煉瓦を意味し、また破風を意味する

男性的であり、芸術的であり、崇高であり、われら早大母校の象徴として

校歌に歌われる

むしろ本会の独占する事、借越の感なきにしもあらずといえども

そこは建築科であるが故の縁（ユカリ）による特権であらねばならぬ

